

授業科目名	防災心理・教育学特論	(英語名)	Advanced Psychology and Pedagogy for Disaster Management
科目区分	博士前期課程科目	対象学生	環境人間学研究科
単位数	2.00単位	開講年次・学期	1・2年次・後期
担当教員	木村 玲欧	所属	環境人間学研究科
授業の形態	講義	関連するSDGs目標	目標3 / 目標11 / 目標13
オフィスワーカー・場所	随時・電子メールにより事前連絡・C304	連絡先	学務課等に確認してください
対応するディプロマ・ポリシー(DP)	【学部・研究科】	D P 1	
対応するディプロマ・ポリシー(DP)	【全学DP】		
対応する教職課程の学習目標			
講義目的・到達目標	<p>【講義目的】災害に対して安全安心な社会を実現するためには、災害場面および防災を促進させるための心理・行動と適切な教育手法を理解することが重要である。本講義では災害場面および防災を促進させるための心理・行動のメカニズムと教育手法を理解するために、具体的研究成果および地域・学校等における防災教育実践について概説・検討を行うことで、この分野における研究開発能力を高める。</p> <p>【到達目標】本講義の到達目標は、1) 災害場面および防災を促進させるための心理・行動のメカニズムを理解すること、2) 防災を促進させるための教育手法を理解すること、である。</p>		
授業のサブタイトル、キーワード	<p>サブタイトル：災害場面での心理・行動を理解し、適切な教育手法によって防災基礎力（災害を知る・備える・行動する力）を身につける防災心理・教育学特論</p> <p>キーワード：学校安全、災害安全、災害管理、災害対応、防災教育、認知モデル、リスク認知、災害過程、失見当・ストレス、防災訓練、防災研修</p>		
講義内容・授業計画	<p>【講義内容】</p> <p>災害場面および防災を促進させるための心理・行動のメカニズムと教育手法を理解するために、具体的研究成果および地域・学校等における防災教育実践について概説・検討を行うことで、この分野における研究開発能力を高める。なお、心理学、教育学、行動科学、社会調査法の基礎知識がない受講生が多い場合については別途配慮する。</p> <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 防災心理・教育学の理念と目的 2. 心的メカニズムの理解（1）人間の心理・行動 3. 心的メカニズムの理解（2）認知モデル 4. 心的メカニズムの理解（3）環境認知 5. 心的メカニズムの理解（4）集団過程 6. 災害・防災における心理・行動（1）リスク認知 7. 災害・防災における心理・行動（2）災害過程 8. 災害・防災における心理・行動（3）失見当・ストレス 9. 災害・防災における心理・行動（4）復旧・復興 10. 災害・防災における心理・行動（5）知見・教訓の継承 11. 防災教育手法の理解と実践（1）地域における防災実践 12. 防災教育手法の理解と実践（2）学校における防災実践 13. 防災教育手法の理解と実践（3）防災訓練・研修手法 14. 防災教育手法の理解と実践（4）未来に備えるための防災教育 15. まとめ（防災心理・教育に関する研究成果・知見・教訓を概括する） 		

テキスト	<p>『災害・防災の心理学 - 教訓を未来につなぐ防災教育の最前線』（木村玲欧、北樹出版、2015）</p> <p>『授業でも研修でもすぐに使える グループワークのトリセツ』（木村玲欧、北樹出版、2020）</p> <p>必要に応じてプリント等を適宜配布する</p>
参考文献	必要に応じて紹介する
事前・事後学習（予習・復習）の内容・時間の目安	<p>【予習】授業に際して指示する資料の部分を事前読み込み（5h）、発表・質疑応答の準備（30h）</p> <p>【復習】レポート作成（1回、20h）、講義内容の理解を深め定着させるために資料を読み直し（5h）</p>
アクティブ・ラーニングの内容	ゲスト講師を交えたディスカッションを予定（1回）。受講者による発表・質疑応答を予定（3回）。またグループ単位での作業・発表を予定（5回）。
成績評価の基準・方法	<p>【成績評価の基準】</p> <p>防災場面における人間心理・行動のメカニズムと課題を理解し、防災を促進させる教育手法状を提案できる者に単位を授与する。</p> <p>講義目的・到達目標に記載する能力（知識・技能、思考力、判断力、表現力等）の到達度に基づき、S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）による成績評価の上、単位を付与する。</p> <p>【成績評価の方法】</p> <p>発表・レポート50%、グループワーク50%を基準として、受講態度（積極的な質疑応答等）を含めて総合的に評価する。</p>
課題・試験結果のフィードバック方法	講義内容・発表等をもとに作成したレポートは、メールにてそれぞれコメントを付して返す。
履修上の注意・履修要件	<ul style="list-style-type: none"> 履修にあたって、心理学・行動科学・社会調査法の基礎知識がない受講生が多い場合については別途配慮する。 授業中に指示した宿題や事前・事後学習はもとより、「講義内容・授業計画」に記載した該当箇所に関するテキスト・プリントなどについて、十分な予習・復習をして講義に出席すること。
実践的教育	該当しない
備考	担当教員は、心理学・教育学をもとにした災害・防災研究を行っている。この講義は、担当教員の専門分野の1つである「災害時の心理・行動、適切な教育手法」についての理論的背景と枠組みについて概説・検討するものである。詳細は木村玲欧HP（ https://kimurareo.com/ ）や木村ゼミHP（ https://kimurareo-lab.com/ ）を参照のこと。